

DRI 調査レポート No.53 2024

令和6年豊後水道を震源とする
地震における活動報告

2024年5月10日現在

1. 概要

2024年（令和6年）4月17日23時14分に豊後水道を震源とするマグニチュード6.6、深さ39km（いずれも暫定値）の地震が発生した。最大震度の6弱を観測したのは、愛媛県の愛南町、高知県の宿毛市である。この地震による津波は観測されなかった。この地震は、南海トラフ地震の想定震源域内での発生であったが、南海トラフ地震との関係を調査するマグニチュードの基準未満であった¹⁾。

4月25日15時時点では、愛媛県で軽傷者9名・住家の一部破損12棟・非住家被害3棟²⁾、高知県で重傷者2名・軽傷者1名・住家の一部破損1棟³⁾、大分県で軽傷者2名・住家の一部破損8棟⁴⁾、広島県で軽傷者2名・住家の一部破損1棟⁵⁾の被害が報告されている。避難者は高知県で最大1市23名であったが、4月18日8時10分にはすべての避難所が閉鎖されている³⁾。なお、原子力発電所については、現時点で被害情報はあがっていない⁶⁾。

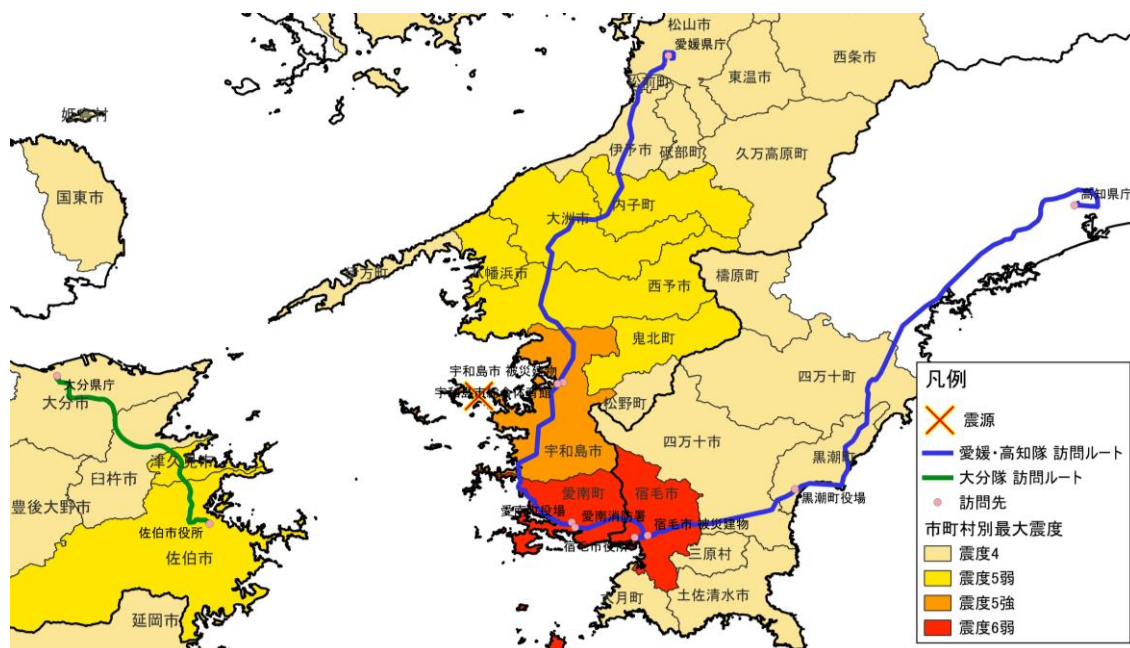
2. 先遣隊の派遣

人と防災未来センターでは、4月17日より各自情報収集にあたり、同日中に第1回初動会議を開催した。地震から一夜明けた4月18日午前9時からの第2回初動会議において、現地調査のため愛媛県と高知県に研究員2名（池端祐一朗、南貴久）及び研究調査員1名（杉原優太）、大分県に研究員1名（山崎真梨子）の派遣を決定した。

- 愛媛・高知隊：愛媛県庁（4月18日）、宇和島市、愛南町、宿毛市、黒潮町、高知県庁（4月19日）
- 大分隊：大分県庁（4月18日）、佐伯市（4月19日）

3. 先遣隊の活動報告

(1) 先遣隊の訪問先



(2) 先遣隊からの報告

1) 愛媛県・高知県

愛媛県庁（18日訪問）では、訪問時には落ち着いている様子が見られた。廊下には、より被害が大きかった場合への対応に備えたとみられる資材が準備された状態であった。県庁職員より「揺れている時間が短く、被害が抑えられた」「今後、より大きな地震が起こる可能性と、週末（20日、21日）に予報されている雨による被害の可能性に備えたい」という情報が得られた。



写真1 愛媛県庁の廊下に積まれた資材（4月18日）

宇和島市（19日訪問）では、概ね落ち着いて対応している様子が見られた。宇和島市内では、商業ビルや市の体育館等に、亀裂や天井落下等の建物被害がみられた。現地の被害状況を確認していた愛媛県の職員によると「被害の報告のあった場所を随時確認している状況」とのことであった。



写真2 宇和島市内店舗の外壁の亀裂（4月19日）

愛南町役場及び同消防本部（19日訪問）では、訪問時には落ち着いている様子が見られた。同町の町議会議員によると、町内の被害状況としては「石垣の里」と呼ばれるエリアの石垣崩落、小学校の体育館の壁のはがれ落ち、民家の食器の散乱等が報告されているとのことであった。同議員は、「発災当初は避難した人もいたが現在は落ち着いている」「揺れが短くてよかった」「議会でも災害についてより取り上げて、南海トラフ地震に備えたい」と話した。

また、同町防災対策課の職員によると、「現時点では町内の人的被害は報告されていない。夜中の地震なので、石垣の崩壊に巻き込まれた人がいなくてよかった。」とのことであった（その後、愛南町では軽傷者1名が判明²⁾。「今回は対応する（町長以下）職員が皆、速やかに集まった」とのことである。同町では、防災対策部局が消防本部の中にあり、「消防署には24時間勤務の職員がいるため助かった」とも話していた。災害対策本部についても、災害発生当初は消防本部内に設置し、対応が長期化するようであれば、時期を見て町役場の本庁舎に移動させる手順となっているとのことであった。訪問時は、消防本部内の会議室に災害対策本部が設置された状態であった。



写真3 愛南町議会議員へのヒアリング（4月19日）



写真4 愛南町防災対策課職員へのヒアリング（4月19日）

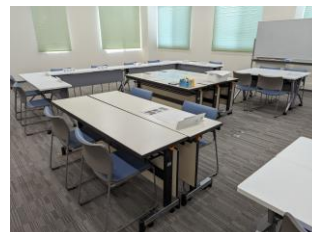


写真5 愛南消防署内に設けられた災害対策本部（4月19日）

宿毛市役所（19日訪問）では、訪問時には概ね落ち着いている様子であったが、危機管理の担当部署は多忙な様子であった。市役所の入口付近では、被災証明書の発行やブルーシートの配布を行っていた。また、国や県、自衛隊等の職員が派遣され、対応にあたっていた。市役所職員によると、「市内の被害としては道路の損傷、街灯の転倒、店舗の損壊のほか、骨折等の人的被害が報告されている」

「水道の給水管も一部損傷し、一時は給水車も出したが、すでに復旧している」とのことだった。同職員の話では、「市内で被害はあったが、人命にかかわるものが無くてよかった」「南海トラフ地震に備えた市内施設の高台移設や津波タワーの設置等を可能な範囲で進めていきたい」「今回の地震で、市民の防災に対する関心がさらに上がれば」とのことであった。



写真6 宿毛市役所の被災証明書受付（4月19日）



写真7 宿毛市職員へのヒアリング（4月19日）

また、市内の現地調査の結果、屋根の瓦の落下、店舗で落下防止処置のされた棚に陳列されていた酒の瓶がその棚の上で割れるなどといった被害が出ていることを確認した。



写真 8 宿毛市内の店舗から道路に落ちた屋根瓦 (4月19日)



写真 9 宿毛市内の民家の屋根瓦 (4月19日)



写真 10 宿毛市内の店舗で地震により割れた酒瓶 (4月19日)

黒潮町役場 (19日訪問) では、落ち着いている様子が見られた。役場職員は「黒潮町では津波の情報を待たずに、役場付近の高台に避難をしてきた住民が多くみられた。」と話しており、南海トラフ地震に備えた日頃の取り組みの成果が出ている様子が見受けられた。

高知県庁 (19日訪問) では、全般として落ち着いている様子が見られたが、災害対応する職員は多忙そうであった。職員によると「一時、県内全ての市町村で災害対策本部が解散したとの情報を得たため県庁も体制を縮小したが、宿毛市では災害対策本部が解散していないことが判明したため、県においても再び災害対策本部体制に移行した」とのことであった(高知県の資料⁹⁾によると、県の災害対策本部は4月18日16時30分に一時解散し第1配備体制に移行、その後4月19日16時10分に災害対策本部を再設置)。なお、このことによる災害対応への影響はなかったと報道されている⁷⁾。

2) 大分県

発災翌日の18日午後**大分県庁**を訪問。大分県内は最大震度5弱であり、高速道路、市内道路等に影響は見られなかった。また、訪問時の大分県庁内に大きな混乱は見られず、今後を見通しながら本部体制・対応等が行われていた。これは、発災前から災害対策本部配置作成等の備えを行っていたことが影響していると考えられる。

19日には、震度5弱を観測した大分県南部の**佐伯市役所**を訪問。災害対策本部開設・運営は問題なく行われており、被害調査も発災前に規定していた手順で行われていた。

大分県、佐伯市の初動対応の状況からは、手順やレイアウトの規定等の平時の備えの重要性とその効果が再認識された。

4. まとめ

先遣隊の派遣を通して、今回の地震では高知県宿毛市や愛媛県宇和島市を中心に被害が確認されたが、観測震度の割に全体としては被害が少ないように見受けられた。これは現地で揺れを体感された方の話や専門家の見解⁹⁾からも、強い揺れが短時間で収まったことが一因であると考えられる。

また、現地の行政担当者に話を伺う中で、国や県、警察からの人員派遣が迅速であったことが確認できた。これは、南海トラフ地震等に備えた取り組み等の成果であると考えられる。

一方、今回の地震の主要な被災地である四国南西部エリアは幹線交通網から外れており、各県庁からも遠方に位置するため、より規模の大きい災害が発生した場合には、本年1月に発生した能登半島地震における奥能登地域と同様、孤立や支援の遅れが強く懸念される。南海トラフ地震では、こうした状況が同時に多数の地域で発生することも考えられ、今後の防災上の大きな課題となることが再認識された。

なお、今回の被災地域は、先に述べた通り被害も多くなく、役所もおおむね落ち着いていたため、人と防災未来センターによる現場での長期的な災害対応支援ニーズは高くないと判断し、研究員の派遣を終了した。

最後に、被災された方々にお見舞いを申し上げますとともに、速やかに心穏やかな生活に戻ることができまよう心からお祈りいたします。大変な状況の中、現地にてご対応いただいた皆様・ご協力いただ

いた関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。

参考資料

- 1) 気象庁：令和6年4月17日23時14分頃の豊後水道の地震について，2024年4月18日01時10分。
- 2) 愛媛県災害対策本部：豊後水道を震源とする地震による被害状況（第16報），2024年4月25日15時00分。
- 3) 高知県災害対策本部：令和6年4月17日地震災害に係る被害状況等について，2024年4月24日18時40分。
- 4) 大分県災害対策連絡室：令和6年4月17日 豊後水道を震源とする地震に関する災害情報について（最終報），2024年4月18日16時30分。
- 5) 広島県危機管理監危機管理課：豊後水道を震源とする地震による被害状況について，2024年4月19日。
- 6) 四国電力株式会社：地震による伊方発電所の状況について（続報），2024年4月18日。
- 7) NHKニュース：震度6弱の高知県 宿毛市の誤報告で一時災害対策本部を解散，2024年4月19日。
- 8) 大分県：大分県地震津波被害想定調査報告について（概要），2019年3月。
- 9) EBC News：震度6弱でも「建物被害少ない」愛大の専門家が愛南で調査「強い揺れ短時間で済んだ」【愛媛】，2024年4月18日。

DRI 調査レポート No.53 (2024年5月10日現在)



公益財団法人 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
人と防災未来センター
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1・5・2
TEL：078-262-5066 FAX：078-262-5082